

光る人材はどこにいても光る

～高校において「心幹（しんかん）」を育み、人材育成！～

2024年2月27日

熊本県立鹿本農業高等学校

進路指導主事(部長) 教諭 宮田晃宏

【熊本県高等学校進路指導研究会理事】

【山鹿地区高等学校・関係中学校進路指導連絡協議会理事】

はじめに

私は只今、53歳。教職31年目。教科・農業で食品製造という科目で採用された私は、指導困難校と呼ばれる農業高校を中心に教職の実践を重ねてきました。特に担任業務へのこだわりが強かったので、22歳から38歳までの16年間連続で正担任をやらせていただきました。3年間持ち上がって卒業させたクラスは6クラスあります。阿蘇農業高校（現 阿蘇中央高校）で1クラス、苓明高校（現 天草拓心高校）で1クラス、菊池農業高校では3クラスであります。鹿本農業高校でも1クラス卒業させました。この中で菊池農業高校は特に長く、14年間在籍していました。

菊池農業高校へ赴任したのは2000年4月（偏差値35前後）で、おそらく熊本県一荒れていたと思います。どのような状況であったか簡単に言うと、対教師暴力・暴言が珍しくない、恐喝、公共物破損、窃盗、暴走行為、いじめ、怠学、授業中に校舎内外徘徊（喫煙・飲酒・花火をする者もいた）、私服登校する生徒が2～3割位居る、土足で校内に上がってくる生徒も多数居て、不純異性交遊、援助交際、妊娠しておろすということを繰り返すといった生徒も居る、保護者や生徒から教育委員会へクレームを電話するのが多い、喫煙を校外・校内でする生徒も多数居て、菊池農業高校生が使用するバス停は周辺の地域住民からクレームが多すぎるので廃止にするかもという連絡がバス会社からあったり、不動産業の方より「お宅の生徒さんが目に余る状況があるから物件が売れにくい」と言われたりもした。1年間の特別指導（停学・校長訓戒）の件数も延べ100件（全校生徒は500名程度）を超えている状態が何年も続いていました。それで、職員からも「この学校は、殺人以外は何でもある。」といった言葉も複数名から聞きました。

ただ、これは菊池農業高校に限ったことではなく、私が農業高校の教師になった1年目の時、その当時勤務していた阿蘇農業高校での話ですが、小学生数名が正門を通過しながら阿蘇農業高校を指さして「この学校はバカが行く学校で、試験に名前だけ書くと合格すってだけん。」と嘲笑いながら歩いていったのをよく記憶しています。これは、この児童たちだけの言葉というわけではなく、世相を反映していると強く思いました。熊本県の農業関係高校の実情を考えると、どうしても

まず進学校（普通高校） → そして工業・商業高校 → 最後に農業・水産高校
という順で中学生の進路選択がなされますので、農業高校へ入学してくるのは、学力的に
厳しい状況の生徒が大多数であり、小中学校時代に塾に通っていた生徒などごく稀にしか
いません。おそらく、これは全国的な風潮であると思われます。また、家庭の経済的困窮や
一人親や施設から通って来る生徒の割合も非常に高いもの（私が担任したクラスで 50%程
度）があります。

このような生徒たちに通常の教育理念・理想・方法で接しても全くと言っていいほど通用
しないことが多く、進学校ばかりに勤務してきた先生などはカルチャーショックを受け、悩
んだり、人のせい（「生徒が悪い」、「保護者が悪い」、「農業高校が悪い」、「地域が悪い」、「文
科省が悪い」、「政治が悪い」という人が実に多い）にばかりするようになり、やる気を
失ったりという先生をよく見かけてきました。結構、このような先生方は高学歴者の方が多
く、「仕事から逃れるプロ」になられる。ただ、こういう農業高校の状況だからこそ本当の
「教育力」・「人間力」をはかれる場でもあると思って農業高校の生徒の指導に当たってきま
した。私自身、農業高校出身でありますから、「こいつらの本来持っている力をあぶり出し
たい」という気持ちの方が強く、吉田松陰の松下村塾で掲げていた下の言葉が好きで、自分
自身の指針としています。この言葉は、自分のクラスに必ず掲げるようにし、家の玄関にも
飾っています。

「**草莽崛起**」 そうもうくつき : 在野の人（民間人）が急にそびえ立つ。

『自分のクラスや自分の指導した生徒から「随所に主となる（様々な分野でのリー
ダー）」人物を多く排出していきたいという強い願い』

この精神を大切にし、農業高校なりの、また、社会最下層なりの「志」の育成というもの
があると信じてやってきました。

このような状況下でどのような教育方法がいいのかと考え抜いた結果辿り着いたのがク
ラスの生徒一人一人と文通（単なる手紙のやりとりではないです。詳しくは報告にて）する
ことで、生徒の心に入って指導することを思いつき、週に1~2回クラス全員に対して「書
かせる指導」というものをやるようになりました。そして、クラス運営の根っこに位置づけ、
この指導をやり始めたのです。

ただ、平成 21 年度に初任者指導教員と学科主任を兼任することから初めて副担任をする
こととなりました。その後、平成 23 年度は教育委員会派遣で熊本県立大学の大学院派遣研
修で 2 年間過ごし、平成 26・27 年度は教育委員会へ出向し、平成 28 年度は現場に戻った
かと思えば同窓会事務局長及び学科主任で正担任はできずという状況でありました。そし
てやっと、平成 31 年度（令和元年度）に現在在籍する鹿本農業高校へ異動となり、8 年ぶ
りに新入生を正担任することとなり、正担任へ復帰しました。そして、その新入生を持ち上
がり、令和 4 年 3 月に卒業させましたが、特別支援学校と化した状況下の現任校では、菊池
農業高校時代と同じレベルで「書かせる指導」を実施できず、現在は 1/10 以上縮小した

と言ってもいいくらいです。「書かせる指導」だけでなく、担任として全般的な関わりで言えば、1/20以上といったところでしょうか。その分、福祉的指導に多大な時間を割いています。今にして思うと、菊池農業高校時代の生徒がエリート集団に感じているくらいです。

長々と書き連ねてきましたが、このような状況から現在の勤務校における実践発表は著しくレベルが低くなることから、菊池農業高校における実践を発表させていただきます。

I 「心幹」を育む「書かせる指導」の目的・方法

1 「書かせる指導」の事前準備

菊池農業高校に入学してくる生徒は、義務教育において学業成績低位層の割合が高く、劣等感を抱いている割合も高いものがありました。そこで、更にこの「書かせる指導」において、ついてくることができず、「落ちこぼれ」を一人でも出したら意味が薄れるとともに、その生徒から「未提出の輪」が広がってしまい、効果が激減してしまうと考えて指導に当たることにしていました。どのようなクラスにも真面目な生徒は居るが、それらの生徒だけを対象に実施するようでは、この指導の効果はかなり限定的なものになると考えておりました。そこで、下に掲げる5点を生徒指導的な躰面の事前準備を必要とすると考えていました。

- ①欠席・遅刻・早退・欠課を極力「0」に近づける。
- ②提出物を期限内にきちんと仕上げ全員漏れなく提出させるようにしておく。
- ③クラス内・学科内・学年内での「情報公開」の平準化。
- ④入学後1ヶ月以内に保護者の理解を得る。・・・入学式と家庭訪問にて
- ⑤入学後1ヶ月以内に生徒にもある程度の理解を得る。・・・個人面談や全体指導

上に掲げた5点の具体的実践方法は以下の通りです。

◎欠席指導

- 1 8:10までに保護者より担任へ直接連絡。他は不可。
- 2 連絡の有無に限らず家庭訪問実施（通常はお見舞い）。
- 3 連絡不備の欠席があったら、連帯責任で学級全員放課後残して指導（1年生の10月から実施）。

◎遅刻指導

- 1 遅く来たものは遅く帰す（作文 原稿用紙4~5枚程度or作業）。
- 2 逃げて帰ったら、次の日に倍にするか家庭訪問。
- 3 連絡不備・寝坊の遅刻があったら、連帯責任で学級全員放課後残して指導（1年生の10月から実施）。
- 4 学期中に2回以上となった場合、早朝登校指導実施。
- 5 バイク通学生は、免許5日間預かりor7:30登校指導10日間。

◎早退指導

- 1 保健室に行く場合は、まず担任に申し出たあとで。
- 2 早退する際も担任で判断。
- 3 早退の状況を家庭へ連絡。
- 4 無断早退は家庭訪問実施。
- 5 連絡不備の早退があったら、連帯責任で学級全員放課後残して指導（1年生の10月から実施）。

◎欠課指導

- 1 保健室に行く場合は、まず担任に申し出たあと。
- 2 授業遅刻も通常の遅刻指導を課す。
- 3 欠課の状況を家庭へ連絡。
- 4 連絡不備の欠課があったら、連帯責任で学級全員放課後残して指導（1年生の10月から実施）。

◎提出物指導

- 1 期限を事前に連絡→前日になったら再度連絡→〆切日当日、取りに帰ってでも提出させる（プリントなど紛失している場合は手書きで作らせる。できる限り簡単に渡さない）。
- 2 未提出者は電話連絡をしたりして、次の日は反省文（作文原稿用紙4～5枚程度）などと一緒に提出させる。

◎服装頭髪指導

- 1 3回以上の注意により、連帯責任で学級全員放課後残して指導（1年生の10月から実施）。
- 2 「工場見学（1年夏休み）」や「ボイラー取扱技能講習（2年夏休み）」・「現場実習（2年3月）」・「危険物取扱者試験（1年11月・2年6月）」といった学科の行事の際は事前に学科として服装頭髪検査や指導の実施。

◎授業態度指導

- 1 授業担当者から苦情（態度不良、携帯電話・ゲーム・漫画などの没収など）が来たら、連帯責任で学級全員放課後残して指導（1年生の10月から実施）。
- 2 「書かせる指導」の実践目的

直接的：①就職・進学を問わず、「学校推薦」で受験する生徒がほとんどであり、「一般入試」で受験する生徒が皆無に等しい。それで、総合型選抜・学校推薦型選抜（旧AO・推薦入試）で課される内容として『小論文・作文』、『面接』が挙げられ、圧倒的に多いことから、この対策として「書かせる指導」を行う。

②基礎的・基本的な国語力・作文力を身に付けさせる。

間接的：①クラスの中間層の生徒の情報収集及び指導・コミュニケーションに生かし、上層の生徒へ吸収させる手段とする。

②中学時代までの悪しき生活習慣を改善し、基礎的・基本的生活習慣の躓きを

修正する。期待していた効果としては下の通り。

- 1 書類等提出物を期限内にきちんと仕上げ提出する力
- 2 人の話に耳を傾けて理解する力
- 3 時間・期限を守る力
- 4 組織における「きまり（校則・就業規則など）」を守る力
- 5 忍耐力

②中学時代までの悪しき学習習慣を改善し、基礎的・基本的学習習慣の躓きを修正し、思考力も高める。期待していた効果としては下の通り。

- 1 学習の意義を理解させる
- 2 机に向かう習慣の確立
- 3 継続力の育成
- 4 計画力の育成
- 5 劣等感の払拭

③自信をつけさせ、自分や所属するクラス・学科・学校に誇りを持たせる。

④独自性・創造性を磨く。

3 「書かせる指導」の実践方法

期間：入学式の次の週から3年生の1学期期末考査1週間前まで実施。

※定期考査1週間前から定期考査終了日までは実施しない。

方法：①週に1～2本実施する。

②量は800～1,200（原稿用紙2～3枚）を求める。

※最後の行まで書いてないものは受け取らない。

③内容は、身の周りの事・時事・職業・人物について考えたことを書くことから始めて、徐々に農業・食品について、そして、大学入試の小論文に挑んだり、コンテスト等に応募させたりしていく。

④提出させた作品は、必ず1週間以内に添削を丁寧に行って返却する。

⑤内容の優れた作品・示唆に富む作品を2～4本選んで、提出者全てに「手本」として配付し、次回の自身の作品作成の参考とさせる。

⑥1学期に3本前後は、生徒了承の下、保護者にも送付するか、又は手渡しする。

⑦未提出者については、反省文と一緒に提出させる。これにも従わなかった場合、家庭訪問をしてその場で書かせる。

※反省文は新聞のコラム写し（600字程度）、コラムの感想（600字以上）、反省文（600字以上）の合計1,800字程度（原稿用紙4枚半）を1セットとする。

⑧2年生からは、四大や公務員などを志望する生徒は特化して別メニューにて実施する。

※この指導は、放課後の部活動等がすべて終わる時間帯及び学校休業日に、週

に 2～3 回実施する。また、私が所属する食品化学科の生徒だけではなく、他学年や他学科の生徒で、担任や学科の先生から依頼があった生徒も一緒に実施する。

- 4 「書かせる指導」の高校 3 年間の指導過程（「書かせる指導」を学年ごとに表現指導のカリキュラム三段階に照らし合わせて）

「表現指導のカリキュラム三段階」とは？

第一段階：個人的な体験を掘り起こし、個人的な体験の意味を考えさせる。

本人の個人的で主体的な側面。自分とは何かを直接に考える。

具体例・・・自分史、生活経験の作文、所感文、学校行事作文

第二段階：現実社会や自然の問題にぶつからせ、その問題の本質を考えさせる。

社会的・客観的な側面。人間とは何か、社会とは何か、社会問題の本質とは何かを考える。

文献調査だけではなく、フィールドワークとインタビュー取材が必修。

具体例・・・説明文、意見文、記録文、観察文、報告文、レポート

第三段階：第二段階の問題と、自分の生き方を関係させて考えさせる。

第一段階と第二段階を結び付け、本人の問題意識を作り、テーマを自覚する過程にする。

キャリア教育や進路・進学動機づけに一番肝心な点となる。

具体例・・・志望理由書、論文（小論文）

1 学年

第一段階

- ①「今週の出来事」、「最近の出来事」・・・月に 1～4 回実施 ⇒資料 1・2

生徒は自分を振り返り、私は生徒を知るための文通目的として実施。

- ②「私の一日」・・・学期に 1～2 回実施。

自分の一日の生活サイクルを振り返りさせる。

- ③「学期の反省・感想・意見」、「1 年間の反省・感想・意見」・・・学期毎自分の 1 学期間・1 年間を振り返りさせる。

- ④「教育入寮日誌・レポート」・・・1 年生の 4 月に実施

学校行事作文（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）

- ⑤「文化祭レポート」：・・・1・2 年生の 11 月に実施

学校行事作文（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）

- ⑥「デコレーションケーキ作成レポート」・・・各学年の 12 月に実施

学科行事作文（学科共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）

- ⑦「食品製造実習レポート」、「食品化学実験レポート」・・・授業毎

専門科目の実習・実験毎に振り返りをさせる。

- ⑧「人生の逆算表（満足な人生の場合）」、「人生の逆算表（後悔の人生の場合）」
…2年生進級時の春休みに実施
2年生の「中だるみ」防止のために実施。
- ⑨「遅刻・提出物遅れ反省文」…3年間適宜実施
遅刻した生徒及び提出期限等を守れなかった生徒の自分自身の振り返り
- ⑩学級日誌…毎日実施
クラスの振り返り（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）

第二段階

- ①「先進地視察研修のしおり」…1年生の夏休みに実施
学科行事作文（学科共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ②「農業クラブ校内意見発表」原稿作成…各学年の4月に実施
農業高校行事作文（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ③「時事視聴覚小論文」…3年間適宜（月に1～2回）実施
『NHKスペシャル』等を視聴して自分の考えを作文させる。
- ④「視聴覚小論文」…3年間適宜（月に1～2回）実施
『知ってるつもり』、『その時、歴史が動いた』、『プロジェクトX』、『歴史秘話ヒストリア』、『プロフェッショナル 仕事の流儀』等を使って意見・感想文を書かせると共にメンタル強化・憧れの大人像探求として。
- ⑤「卒業生講話レポート」…1・2年生の夏休み・6月に実施
主に国公立大学に進学した卒業生・教育実習生に大学の魅力を語ってもらい、意見・感想文を書かせる。
- ⑥「特別進路講演」…3年間適宜実施
大学教員、ベネッセ社員、在学中に交通事故により右腕付随になった教え子に講演を
してもらい、意見・感想文を書かせる。
- ⑦大学入試センター試験体験レポート…1・2年生の1月に進学希望者のみ実施
大学入試センター試験の会場に連れて行き、会場の雰囲気の中から進学校生の緊張感と勉強量を体感すると共に、推薦入試のありがたさを理解させることを目的として、レポートを作成させる。
- ⑧「オープンキャンパスレポート」…3年間適宜進学希望者のみ実施
自分の目標とする進学先のオープンキャンパスに参加し、レポート作成。
- ⑨「校外研修レポート」…3年間適宜進学希望者のみ実施
『大学開放講座』、『知覧特攻基地記念館』、『ひめゆりの塔』、『旧海軍司令部壕』、『熊本城（昭君の間）』、『熊本洋学校教師ジェーンズ邸』、『熊本市水の科学館』、『熊本県薬剤師会医薬品検査センター』等に連れて行き、レポートを作成させる。

第三段階

- ① 「題目指定小論文」：…3年間適宜（月に1～2回）実施 ⇒資料3
オーソドックスな題目を指定する形態で、一つ問いを立て、その回答文を批判予想も交えて書かせるというもの。
- ② 「要約小論文」：…3年間適宜（月に1～2回）実施
『日本の論点 文藝春秋』等の課題文、課題データ等を渡し、要約をさせて、「題目指定小論文」と同じように一つ問いを立て、その回答文を批判予想も交えて書かせるというもの。

2 学年

第一段階

- ① 「最近の出来事」…月に1～2回実施
生徒は自分を振り返り、私は生徒を知るための文通目的として実施。
- ② 「私の一日」…学期に1～2回実施。
自分の一日の生活サイクルを振り返りさせる。
- ③ 「学期の反省・感想・意見」、「1年間の反省・感想・意見」…学期毎自分の1学期間・1年間を振り返りさせる。
- ④ 「文化祭レポート」：…1・2年生の11月に実施
学校行事作文（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ⑤ 「デコレーションケーキ作成レポート」…各学年の12月に実施
学科行事作文（学科共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ⑥ 「食品製造実習レポート」、「食品化学実験レポート」…授業毎
専門科目の実習・実験毎に振り返りをさせる。
- ⑦ 「遅刻・提出物遅れ反省文」…3年間適宜実施
遅刻した生徒及び提出期限等を守れなかった生徒の自分自身の振り返り
- ⑧ 学級日誌…毎日実施
クラスの振り返り（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）

第二段階

- ① 「現場実習記録簿」…2年生の3月に実施
学科行事作文（学科共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ② 「修学旅行見聞録」…2年生の12月に実施
学校行事作文（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ③ 「農業クラブ校内意見発表」原稿作成…各学年の4月に実施
農業高校行事作文（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ④ 「時事視聴覚小論文」…3年間適宜（月に1～2回）実施
『NHKスペシャル』等を視聴して自分の考えを作文させる。
- ⑤ 「視聴覚小論文」…3年間適宜（月に1～2回）実施

『知ってるつもり』、『その時、歴史が動いた』、『プロジェクトX』、『歴史秘話ヒストリア』、『プロフェSSIONAL 仕事の流儀』等を使って意見・感想文を書かせると共にメンタル強化・憧れの大人像探求として。

⑥「卒業生講話レポート」…1・2年生の夏休み・6月に実施

主に国公立大学に進学した卒業生・教育実習生に大学の魅力を語ってもらい、意見・感想文を書かせる。

⑦「特別進路講演」…3年間適宜実施

大学教員、ベネッセ社員、在学中に交通事故により右腕付随になった教え子に講演をしてもらい、意見・感想文を書かせる。

⑧「社会人シミュレーション」…3年生進級時の春休みに実施

自分の目指す職業における稼ぎで単身生活を考えさせ、3年生における進路希望の一助とする。

⑨大学入試センター試験体験レポート…1・2年生の1月に進学希望者のみ実施

大学入試センター試験の会場に連れて行き、会場の雰囲気の中から進学校生の緊張感と勉強量を体感すると共に、推薦入試のありがたさを理解させることを目的として、レポートを作成させる。

⑩「オープンキャンパスレポート」…3年間適宜進学希望者のみ実施

自分の目標とする進学先のオープンキャンパスに参加し、レポート作成。

⑪「校外研修レポート」…3年間適宜進学希望者のみ実施

『大学開放講座』、『知覧特攻基地記念館』、『ひめゆりの塔』、『旧海軍司令部壕』、『熊本城（昭君の間）』、『熊本洋学校教師ジェーンズ邸』、『熊本市水の科学館』、『熊本県薬剤師会医薬品検査センター』等に連れて行き、レポートを作成させる。

第三段階

①「題目指定小論文」：…3年間適宜（月に1～2回）実施

オーソドックスな題目を指定する形態で、一つ問いを立て、その回答文を批判予想も交えて書かせるというもの。

②「要約小論文」：…3年間適宜（月に1～2回）実施

『日本の論点 文藝春秋』等の課題文、課題データ等を渡し、要約をさせて、「題目指定小論文」と同じように一つ問いを立て、その回答文を批判予想も交えて書かせるというもの。

3 学年

第一段階

①「最近の出来事」…月に1～2回実施

生徒は自分を振り返り、私は生徒を知るための文通目的として実施。

②「私の一日」…学期に1～2回実施。

自分の一日の生活サイクルを振り返りさせる。

- ③「学期の反省・感想・意見」、「1年間の反省・感想・意見」…学期毎自分の1学期間・1年間を振り返りさせる。
- ④「私の高校生活」…3年生の7月実施
自分の3年間を振り返りさせる。進路用調査書の参考としても利用。
- ⑤「デコレーションケーキ作成レポート」…各学年の12月に実施
学科行事作文（学科共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ⑥「食品製造実習レポート」、「食品化学実験レポート」…授業毎
専門科目の実習・実験毎に振り返りをさせる。
- ⑦「自分史」…3年生の卒業間際にピックアップした生徒に実施 ⇒資料4
高校3年間において、特に成長した生徒に自分を振り返らせると共に、私自身及び
後輩の良き参考と模範にするため。
- ⑧「遅刻・提出物遅れ反省文」…3年間適宜実施
遅刻した生徒及び提出期限等を守れなかった生徒の自分自身の振り返り
- ⑨学級日誌…毎日実施
クラスの振り返り（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）

第二段階

- ①「農業クラブ校内意見発表」原稿作成…各学年の4月に実施
農業高校行事作文（学校共通のものは使用せず、クラス独自で作成。）
- ②「時事視聴覚小論文」…3年間適宜（月に1～2回）実施
『NHKスペシャル』等を視聴して自分の考えを作文させる。
- ③「視聴覚小論文」…3年間適宜（月に1～2回）実施
『知ってるつもり』、『その時、歴史が動いた』、『プロジェクトX』、『歴史秘話ヒストリア』、『プロフェッショナル 仕事の流儀』等を使って意見・感想文を書かせると共にメンタル強化・憧れの大人像探求として。
- ④「卒業生講話レポート」…1・2年生の夏休み・6月に実施
主に国公立大学に進学した卒業生・教育実習生に大学の魅力を語ってもらい、意見・感想文を書かせる。
- ⑤「特別進路講演」…3年間適宜実施
大学教員、ベネッセ社員、在学中に交通事故により右腕付随になった教え子に講演を
してもらい、意見・感想文を書かせる。
- ⑥「オープンキャンパスレポート」…3年間適宜進学希望者のみ実施
自分の目標とする進学先のオープンキャンパスに参加し、レポート作成。
- ⑦「校外研修レポート」…3年間適宜進学希望者のみ実施
『大学開放講座』、『知覧特攻基地記念館』、『ひめゆりの塔』、『旧海軍司令部壕』、『熊本城（昭君の間）』、『熊本洋学校教師ジェーンズ邸』、『熊本市水

の科学館』、『熊本県薬剤師会医薬品検査センター』等に連れて行き、レポートを作成させる。

- ⑧「男と女について考える」・・・3年生の卒業間際に県外の四年制大学に進学する生徒に実施
性による違いを理解させ、進学先での男女間のトラブルが学業に影響を及ぼさないようにする為の一助とする目的でのレポート作成。

第三段階

- ①「題目指定小論文」：・・・3年間適宜（月に1～2回）実施
オーソドックスな題目を指定する形態で、一つ問いを立て、その回答文を批判予想も交えて書かせるというもの。
- ②「要約小論文」：・・・3年間適宜（月に1～2回）実施
『日本の論点 文藝春秋』等の課題文、課題データ等を渡し、要約をさせて、「題目指定小論文」と同じように一つ問いを立て、その回答文を批判予想も交えて書かせるというもの。
- ③「食品化学科改造計画」・・・3年生の6月に実施
自分の所属してきた学科を改造するのであれば、どのような学科名が良くて、どのような教育目標・内容がいいのか、理由も論じさせる。
- ④「志望理由書」・・・3年生の8月に実施 ⇒資料5
生徒の進路先に準じて、過去・現在・未来を繋げて作成。四年制大学希望者には、4,000字以上で作成させる。
- ⑤「専門小論文」・・・3年生の9～11月に四年制大学希望者のみ実施
生徒の進路先に準じて、題目を指定し、志望理由書を使って書かせる。
- ⑥「大学入試小論文過去問題」・・・四年制大学受験直前に実施
生徒の受験先に準じて、過去問題を最低3本は回答させる。
- ⑦「母校へのおくりもの」・・・四年制大学合格後に実施
今まで高校生活において、大学合格するまでにどれだけの先生方・先輩・同級生・後輩に関わってもらったのか振り返りをさせる。それで、AO・推薦入試のありがたさを理解させると共に母校（後輩）に何を残していくか考えさせ、レポートを作成させ、実行させる。
- ⑧「四年制大学入学直前学習会」・・・四年制大学合格後2・3月に実施
下のような教材ビデオを使い、
事前説明 → ビデオ(DVD)鑑賞 → 質疑応答 → 小論文作成 →
教師評価 → 考証(生徒同士の読合せ・意見発表) → 調査 → ディベート
→ 指導講評
という流れで学習会を行う。
『地球大進化 46億年・人類への旅』(325分 5時間25分)

- 『プロ魂～王監督からのメッセージ』、『何があっても勝つ 史上最強の柔道家 山下泰裕』(60分+50分 1時間10分)
- 『アウシュビッツ』(225分 3時間45分) 昼食
- 『徳川家康』(270分 4時間30分)
- 『実録女子刑務所』(113分 3時間00分)
- 『映像記録史 太平洋戦争』(148分 2時間28分)
- 『マネー革命』(300分 5時間00分)

II 「書かせる指導」以外の指導実践

1 教育環境の整備

◎教室の美化 ☆環境は人を育む! ☆教室は「道場」だ!

- 1 まずは、日々の掃除
- 2 日直の仕事の徹底
- 3 環境美化コンクールへの取り組み
- 4 観葉植物の設置(15～20鉢程度)
- 5 標語

◎掲示教育

- 1 担任メッセージを記入して掲示
- 2 掲示物を見る癖をつける

◎毎日のSHRでの指導

- 1 黒板にその日の連絡事項ばかりではなく、前日に気付いたこと、本日気付くべきこと、時事についても板書しておく、10分間のSHRを充実させる。
- 2 朝の教室巡視の折りに板書(所要時間:約30分間程度)。
- 3 朝の生徒スピーチ(1分程度)
- 4 新聞スクラップ配付(3年生1学期に『書かせる指導』を終了しているので、3年生2～3学期の毎朝配付、興味を持って読んで理解し、自分なりの意見を持てるようなレベルに持ってきておく。)

◎教室巡視

- 1 いろいろな変化を感じるために
- 2 毎日、朝(6:00位)1回、放課後1回実施。

◎様々な領域の生徒抽出とその指導

- 1 「私の一日」:適宜実施。生活の乱れている生徒の抽出
- 2 アンケート:主に1年生の1学期に実施

◎学習指導について

- 1 定期考査学習会(クラス一丸となって努力していく雰囲気을少しでも培う、1～2年生で実施)

◎行事への取り組み（単なる消化に終わらせない。）

- 1 菊農フェスタ（文化祭）
- 2 農業クラブ意見発表大会（毎年1学期に実施）
- 3 学科デコレーションケーキ作成（毎年12月に実施）
- 4 修学旅行（2年生の12月に実施）
- 5 食品化学科製品販売ボランティア（年に5回程度）

◎要所でのプリント配付

- クラス全生徒に連絡や注意事項・意図の徹底

◎信賞必罰の「信賞」

- 1 図書券、売店券など進呈
- 2 主にクラスマッチなどの時に実施

◎県外遠征や旅行に行ったときのクラスへの土産・快気祝い

- 1 生徒から生徒へ
- 2 クラスの雰囲気作りの一つとして

◎レクリエーション

- 1 くじ引きによるケーキ争奪
- 2 焼き肉会

2 生徒・保護者との信頼感を深めるために

◎個人面談を学期の始まりに年3回実施

- 1対1が中心（友人同伴も実施する場合あり）

◎各学期毎のアンケート

- 授業（教科担当者も含めて）の全体的雰囲気と生徒個人の学校生活を知る。

◎入学後直ちに全生徒宅家庭訪問

- 1 生徒の家庭生活を見ることにより、「家庭環境調査書」などに表れないものを把握する。
- 2 入学式に配付して説明した指導方針（情報公開・徹底指導）などの浸透をはかる。

◎保護者との懇親会を年3回

- 1 保護者との交流
- 2 保護者同士の交流
- 3 各学期の期末考査終了後に実施

◎考査毎の「成績概要報告」

- 1 保護者に全体的な流れを知って頂くため
- 2 「学習評価規程」の周知徹底
- 3 考査毎に保護者の意見集約

◎各学期毎の「学級懇談会資料」

- 1 保護者にクラスの現状などを知って頂くため

- 2 懇談会後には、個別面談を希望される時は特にその話を重要視し、必ずきちんと動く。

3 進路保障への取り組み

◎工場見学

- 1 1年生の夏休みに実施
- 2 同じパンを造る（作る）のでも大規模工場で作るのと地域のパン屋さんが作るのでは技術のレベルとして全くの違いがある。このような違いを理解させ、職業意識の高揚をはかり、2年生の現場実習へと繋げていく。
- 3 夏休みボケ防止効果もねらう

◎人生の逆算表

- 1 1年生から2年生に上がる春休みに実施。
- 2 自分の将来を考え、高校2年生をどのように過ごしていくか自分を見つめ直させる。
- 3 中だるみの防止効果もねらう。

◎現場実習

- 1 2年生の3月上旬から中旬にかけて実施。10日間。
- 2 今までの専門教育、1年生時の工場見学といった体験を通して、現場実習をその集大成と位置づける。それを自分の進路決定に近づけ、3年生の春休み後の始業式には進路希望が確定するように持っていく。
- 3 いい評価を頂くのが当たり前という状況をつくる。

◎四大・短大・専門学校・各種学校紹介ビデオ鑑賞

- 1 進学情報収集
- 2 1年生の時に適宜実施。3～4回程度。

◎講演会等の感想文は必ず全行記入

- 1 作文力強化
- 2 書き上げるまで下校させない
- 3 学校代表で先方の講師に数枚添付してお礼状を送付したりするが、その際自分の学級から常に選ばれるように持っていき、それを生徒に話し、自分達の力がついたことを実感させる。

◎考查計画表の作成及び提出

- 1 1・2年生で実施
- 2 計画的な学習習慣を身につけさせる

◎ボランティア活動の呼びかけ

- 1 各行事などでの製品販売、学科でのクリスマスケーキ作成
- 2 様々なイベントでの実習製品販売
- 3 施設・学校訪問

- 4 自主性及び達成感の育成
- 5 母校・自学科・自製品・自クラスへの愛情と誇りを深める。

◎課題実習

- 1 2年生の2学期から3学期にかけて実施
- 2 班作り→テーマ作成及び計画→実習1回目（アンケートも取る）→改善点の発見→実習2回目（アンケートも取る）→改善点の発見→実習3回目（アンケートも取る）→3回の実習のまとめ→OHP、スライド、広用紙を使って発表会を開く。そして、会計簿の提出
- 3 材料なども全て生徒に用意させ、自主性及び達成感の育成。

◎調査書作成用調書（「私の高校生活」・・・A4版12枚）

- 1 3年生の1学期期末考査後に実施
- 2 よりよい調査書作成の為に
- 3 3年間を振り返ることで、面接・小論文対策にもなる。

◎面接力の強化

- 1 7月下旬に三者面談を実施し、上に掲げた「私の高校生活」を必ず持参させる。
- 2 全校登校日に校内選考会議の結果を文書のみにて配付し、あとは私は受け身にて待つ。
- 3 面接も別紙プリントを配付し、私は受け身にて待つ。しかし、一人一回は面接指導をお願いしてくるような雰囲気造成はもちろん欠かせない。
- 4 夏休み中にクラスの指導は終わっておく。
- 5 9月に入ると進路指導部による面接があるが、それは「面接テスト」として捉えていく。
- 6 他学科（学級）は大量の不合格者、私のクラスは大量の合格者が出るという結果であった。

◎国立大学希望生徒（四大・准看・就職希望生徒の有志も含む）の個別指導

- 1 大学入試センター試験に向けて
- 2 オープンキャンパス2年生での参加を促す
- 3 面接・小論文指導計画
- 4 討論・ディベート、月に1～2回実施
- 5 「熊本大学体験講座『遺伝子と仲良くなろう』」レポート
- 6 「大学入試センター試験体験」レポート
- 7 「四年制大学入試情報収集」レポート
- 8 「菊池地域農業普及活動・情勢報告会『食糧争奪～食料・資源を取り巻く地球規模の視点から～』」レポート
- 9 国公立大学入学直前学習会
- 10 母校への“おくりもの”

Ⅲ 「心幹」を育む「書かせる指導」の効果

1 「書かせる指導」実施クラスと未実施クラスの比較

(1) 出欠状況の比較

担任したクラスの出欠統計一覧表（資料6）を見ると、「書かせる指導」を実施しなかった平成10年度までのクラスとその実施を始めた平成11年度を比べると顕著に違いが分かる。また、同じ学校の同じ学科学年で比較すると、平成8年度の芥明高校食品科学科1年と平成11年度の芥明高校食品科学科1年では、出席率、遅刻、早退共に大きく違っているのが分かる。

次に、この芥明高校より学力的に更に厳しい菊池農業高校（明らかに指導困難校であった）へ平成12年度より赴任することとなったが、平成11年度と比較すると数字的に落ちている印象を受けるかもしれないが、「書かせる指導」を実施していなかった平成8年度の食品科学科1年生と平成12年度の食品化学科1年生を比較すると、平成12年度の方が数字的に高い事が分かる。また、校内15クラス（5学科×3学年）の中でも一番良い出席率であった。

(2) 各種競技大会の比較

農業関係高校には、「日本学校農業クラブ連盟」という組織があり、この全国組織が様々な専門科目を競う競技大会を運営している。通常、下のような流れになっている。

【クラス選抜→学科大会→校内大会→県大会→九州（ブロック）大会→全国大会】
といった流れである。この中で、農業鑑定「食品科学の部」、「食品の部」（資料7-1・2・3・4）、意見発表、プロジェクト発表、農業情報処理について、菊池農業高校での平成12年度から20年度で見ていきたい。

まず、農業鑑定「食品科学の部」であるが、県大会3位以内の入賞者を見たとき、延べ19名の入賞者がいるが、そのうち、私が「書かせる指導」を施した生徒が10名である。通常、3学年であることを考えると、比率が33.3%になるのが通常であろうが、52.6%となっている。同様に、他の競技も同様に下へまとめてみた。

★県大会入賞者 「書かせる指導」を受けた生徒数（比率）

農業鑑定「食品科学の部」	19	10（52.6%）
意見発表	5	5（100.0%）
プロジェクト発表	20	15（75.0%）
農業情報処理	4	3（75.0%）

このような状況から、同じ学科においても「書かせる指導」を実施したクラスとそうでないクラスの差は歴然となっていた。

(3) 小論文コンクール等への影響

上の（2）「各種競技大会」で示されたものは、農業高校内或いは学科内のものであり、「日本の高校生全体とどれだけの関わりがあるかがよく分らない」というような意見もあ

るかと思うが、データが取っている平成 18 年度から平成 20 年度に担任していた生徒の特別活動一覧表（資料 8-1・2・3）に目を向けてみると、農業高校が対象ではなく、広範囲の高校生が応募する論文コンクールでの入賞もある程度の数、出ている。下にそれを抽出してある。

出席番号	小論文コンクール等名称	大会レベル	受賞名（順位）
10	熊本県高等学校弁論大会	県	優秀賞（3位）
	九州高等学校弁論大会	九州	奨励賞
	全国高等学校総合文化祭弁論部門	全国	文化連盟賞
33	社会を明るくする運動菊池市集会作文コンクール	菊池市	最優秀賞（1位）
	熊本県高等学校弁論大会	県	奨励賞
36	熊本県高等学校弁論大会	県	優良賞（6位）
	熊本県高等学校弁論大会	県	優秀賞（3位）
	九州高等学校弁論大会	九州	奨励賞
	松下政経塾「立志論文」コンテスト	全国	最優秀賞（1位）
41	熊本県高等学校弁論大会	県	優良賞（4位）
	松下政経塾「立志論文」コンテスト	全国	佳作賞

このように、進学校や工業高校、商業高校など高校入試段階では学力の差を大きくつけられているが、そのような高校と混じって競うものであっても「書かせる指導」の継続により大きく成長した結果が出ていると捉えることができるのではないだろうか。

2 「書かせる指導」実施クラスの周囲への影響

(1) 学科・学年への影響

私が勤務していた熊本県立菊池農業高校は 5 学科体制で、専門高校の特徴である縦の繋がりが強く、やはり波及効果を考える上でも学科への波及効果が大きかったと考えている。それは、平成 18 年度から 20 年度までの全クラス出欠・成績統計一覧を見ると一目瞭然であり、特に出席率は食品化学科（1C、2C、3C）で上位を占めている割合も高くなっていた。また、本校からは難関中の難関となっている国公立大学合格者数も平成 14 年度から平成 20 年度の学校全体の合格者 17 名のうち、12 名が食品化学科から出ている。昭和 39 年学科創設当時から平成 13 年度まで「0」だったことを考えると、学科への波及効果の大きさを感じられるのではないだろうか。また、難関国公立大学と言われる筑波大学の 3 名の合格者は全て食品化学科からである。このようなことから学科への波及効果は大きいものがあつたのではないかと考えている。

(2) 学校全体への影響

私は平成 12 年度に菊池農業高校へ赴任し、新入生の担任をしたので、その時担任した生徒が卒業していったのは平成 14 年度である。この平成 14 年度とそれ以前の学校全体のデータを比べてみることにする。（資料 9）に示すとおり、「卒業生数」と「四年制大学進学実

績」が平成 14 年度から大幅な改善が見られる。これは、私の担任する学級だけでなく、その縦（学科）と横（学年）にも広がったのではないかと考えられる。具体的にどのような部分の効果があつたのかは実証困難な面があるが、平成 14 年度から学校全体の数字が改善されているのは確かであり、その中で「書かせる指導」を施した生徒たちが中心となって、数字の改善がみられるのは間違いのない事実である。

（3）校外への広がり

平成 14 年度から本校の「卒業生数」と「四年制大学進学実績」が大幅に改善されてきたと上に述べてきたが、特に国公立大学の合格者が伸びてきたことに他の農業関係高等学校から注目されるようになり、平成 17 年の秋口にその当時の菊池農業高校の校長より私に「農業高校から国公立大学合格者をもっと多く輩出し、将来の農業界のリーダー養成をするために『書かせる指導』のノウハウを広げられるような取組みができないか」というような趣旨の話があり、他県の農業関係高校にはない「熊本県農業水産関係進学プロジェクト協議会（校長会主催）」という組織が立ち上がることとなった。この組織は、現在、情報収集や分析なども行っているがメインは、8 月の月上旬に菊池農業高校寮で開催される小論文・討論指導を中心に据えた 2 泊 3 日の学習合宿であり、開催されて 4 年間、この学習合宿に熊本県農業水産関係 13 校より毎年 40～50 名が菊池農業高校寮に集い（他県農業関係高校の生徒や先生方も数名参加）、実施してきた。この合宿は小論文・討論の指導が主であり、この合宿へ参加させるまでに各学校の進学担当、学科、担任の教師を中心として参加生徒の指導に当たるようになってきている。これにより、少なくとも熊本県の農業水産関係 13 校（当時の校数）の意識向上には繋がっていると考えられる。その結果と言い切れるかは分からないが、全国の農業関係高等学校で 47 都道府県中 2 番目の合格者を出すまでになった（本県教育委員会より）。これは、本校の影響が少なからずあつたのではないかと考えられる。

この教育実践は、農業の専門科目だけでなく、全科目の学習、全学校生活に影響を及ぼしていたと考えている。当時九州大学アドミッションセンター準教授の渡辺哲司氏も注目して頂き、著書『「書くのが苦手」をみきわめる』に掲載して頂いたりもしました。その後も幾度となく様々な機会を頂き、菊池農業高校にも 2 回来校された。現在、渡辺哲司氏は文部科学省の教科書調査官として活躍されているが、2023 年 1 月 1 日発行の『指導と評価』では共同執筆させてもらった（資料 10）。また、多くの大学教員や高校教員、出版会社が興味を持ってもらい、講演や執筆の機会を与えてくれました（資料 11）。

（4）教育現場以外への広がり

現在、私が実践してきた「**心幹**を育む**「書かせる指導」**は、学校現場を飛び越えて企業経営者からも注目を浴びるようになってきた。全国 7 万社が加入する一般社団法人倫理研究所という組織があり（全国に約 720 の地域ごとの単会）、「企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を」といった言葉をモットーとして企業経営者の学びの場として様々な活動を行っておられる。この倫理研究所の地方組織である熊本県倫理法人会は 2,700 社が加入していて、全国浸透率が日本一である。熊本県倫理法人会は、25 の拠点に分かれて毎週、経営に

おける心の学びとしてセミナーを開催されている。ピンチをチャンスに変え、事業と家庭の繁栄、そして郷土の発展に貢献する、明るく元気な経営者の仲間作りを活動の基本とされている（令和6年1月現在）。このセミナーに令和5年5月からは、講師として毎月のように招かれるようになり、令和6年2月末時点で9回、講師を務めてきた。また、介護施設経営者の研修会などからも依頼を受けている。もちろん、セミナーでの講話の内容は、「心幹」を育む「書かせる指導」である。セミナー終了後には、軽食を交えshare会が開かれる。その中で、参加者一人一人から感想や経営者としてどのように生かしていきたいか述べられる。会社経営者の方々に向学心の強い集団だけに前向きな意見を活発に語られる。また、拠点の会のフェイスブックページや熊本県倫理法人会ホームページ、全国Facebook倫理友の会ページといったところにも掲載され、さらにshareがはかられる。これから数年が経過した際に、私が実践してきた「心幹」を育む「書かせる指導」を学校現場から飛び越えた企業経営でどのように活用されたか、またその結果、どのような変化・影響が出たのか等、話しを伺うのを楽しみにしている。ぜひ、事業と家庭の繁栄、そして郷土の発展に貢献するものであることを期待している。

IV 「心幹」を育む「書かせる指導」を実践してきたの評価と課題

1 「書かせる指導」の評価

まず、「書かせる指導」の集大成でもあった2008年度卒業生に絞ってクラスの全体の卒業時の状況がどうであったのか見てみることにする（資料12-1・2）。農業関係高校にも工業高校のロボットコンテストのように専門科目の技術・知識を競うものがある。また、様々な部活動に所属していた生徒が居て、他のクラスとは全く違った活躍があり、「宮田先生のクラスだけ学校が違うみたい」という評価もいただいていたので、それを紹介する。3年間で県大会において3位以内の成績を残した数が延べで36あった。また、県代表として九州大会・全国大会に出場した数が20ということで、多方面での活躍を見せてくれた。これらの部活動等でキャプテンや副キャプテンを務めた生徒が9名いた。また、生徒会等の活動であるが、農業高校には「農業クラブ」という農業高校独自の生徒会のような組織もある。これらの役員として活躍する生徒が22名いて、その中には生徒会長、副会長がいて、農業クラブ役員においては熊本県全体の副会長まで務めていた生徒もあった。

次に、一番重要な進路決定状況の評価してみよう。この2008年度卒業生は、172名であったが、進路未決定者が学年で15名出てしまった。しかし、私の担任したクラスは全員進路決定していた（資料13）。また、進路決定内容を見ても学年で国公立大学合格者3名中2名は私のクラスからであった。この国公立大学の合格者であるが、菊池農業高校食品系学科は1964年学科創設以来、合格者「0」であったが、私が菊池農業高校に赴任して最初に3年間持ち上がったクラスから2002年度に初めて合格者が出た。その後、2008年度までの7年間で12名の生徒が合格した。そのうち6名は私の「書かせる指導」を3年間受けた生徒であった。この国公立大学の受験者と合格者の内容を見てみると、7年間で17名受験

した中で 12 名の合格（内 3 名は農業高校からは最難関である筑波大学）であった。私が担任したクラス以外は 11 名受験で 6 名合格であるのに対して、私の担任するクラスは 6 名受験で 6 名全員合格であった。このことから、「書かせる指導」の効果があったと考えてもよいのではなかろうか。

最後に生徒の評価についてである。生徒の声以前に、高校 2 年生 3 学期に中学校と高校の 14 点の項目（欠席、遅刻、早退、欠課、提出物、授業態度、家庭学習、礼儀、言葉遣い、服装頭髪、行事参加、部活動、友人関係、異性関係）でアンケートを取った（資料 1 4）が、比較してみると、部活動が悪化した以外は 10 項目で改善が見られ、3 項目で変化なしという結果がでた。明らかに全体的には中学校より改善が見られ、もちろん、中学校では「書かせる指導」など受けているわけではないのでこれも高校へ入学してからの「書かせる指導」の効果があったと考える。また、生徒の声を聴くためにこの指導の最終段階として、3 年生の 6 月末に「書き続けてきたことにより、身についた『力』とは？」という題で書かせてみた（資料 1 5）が、この結果からも「作文力だけでなく他の様々な力が身についた」とほとんどの生徒が述べている。このようなことから、「書かせる指導」の影響が上にも述べてきたような効果に繋がっていると考える。また、このクラスの生徒が取り上げられた地元新聞（熊本日日新聞）記事は 12 回に昇り、部活動、生徒会活動、論文コンクール、農業クラブ競技大会など多種多様であることが「書かせる指導」で根幹の部分である「心幹」を育成した効果としての広がりではないかと考えている。

私は 2000 年から 14 年間、菊池農業高校に勤務した。最初の 9 年間は持ち上がりで 3 クラスの担任を務めた。この時、「心幹」づくりとして「書かせる指導」を管理職や周囲の先生方、保護者の理解があったため、フルスペックで行うことができた。この指導についてきてくれた 3 クラス約 120 名の生徒の中で、最後に 3 年間担任として指導した平成 21 (2009) 年度の卒業生 39 名（現在 31-32 歳）のうち 13 名についてアンケート及びインタビューによる聴き取り調査を 2021~2022 年に行った。意見が偏らないよう高校卒業時の進路が就職（就職、7 人）、専門学校（専門、2 人）、四年制大学（四大、4 人）のすべてが入るようにした。聴き取り結果で 3 人以上が回答した内容の概要を示す。

【仕事における影響】

- ・ 報告書、レポート、日誌等の提出が苦にならなかった。
- ・ 昇進試験の論文や面接対策をスムーズにできた。
- ・ 書類を読んだり人の話を聴くときに、周囲の人より理解が深く早くでき、それを要約して考えたり、問題点・課題点等に気づき、自分なりの提案を頭で巡らせるクセが付いていたので、上司・同僚などに一目置かれるようになった。
- ・ 「書かせる指導」で会話力も身につけていたので、営業成績で常にトップクラスだった。
- ・ 仕事で一目置かれることにより、工場長や店長に気に入られ、交際に発展し結婚に至った。

【進学先における影響】

- ・レポートの作成に大いに役立ち、周囲の学生より早く作成できるだけでなく、量的にも質的にも高く評価されることが多かった。(専門、四大)
- ・論文コンテスト等で奨学金や賞品を頂いた。(四大)
- ・同級生や先輩(大学院生)から就職活動をする上で、志望理由書の添削を数多く頼まれた。(四大)

【プライベートにおける影響】

- ・「書かせる指導」で説明力も身につけていたので、周囲の人に自分の思いを伝えることで人間関係の構築がスムーズだった。これは恋愛にも行かせた。
- ・自分より学力的には高い弟や妹の志望理由書を添削したり、配偶者の昇進試験におけるレポートや論文の支援を頼まれたりした。
- ・保育園や小学校の先生方との手帳でのやりとりで、常に欄いっぱい記入していたので自分の子どもの様子を先生に伝えられ、また先生からの返事も詳しく返ってくることも多かったことから先生との意思疎通も取りやすかった。

この13名の中で、一人の生徒のアンケートについては、資料16に示している。これらのアンケートの結果は予想を超える評価であった。

ここまで紹介してきたように、多方面の様々な結果から「書かせる指導」が強く影響していたと考えている。正に、「書かせる指導」はクラス全体の全科目指導そして全学校生活指導であり、「心幹」を育む指導であった。と私は捉えている。

私が行ってきた「心幹」づくりとしての「書かせる指導」は、高校や中学校、専門学校、企業研修、所属する日本農業教育学会や日本学級経営学会等で65回も発表させていただき、『リーダーシップ』(農文協)では十数回、『VIEW21』(ベネッセコーポレーション)、『月刊高校教育』(学事出版)、『教育』(かもがわ出版)など多くの雑誌や書籍等にも掲載された。その中で「高校作文教育研究会(高作研)」という組織からも発表依頼をいただき、その後、この回の運営委員にも誘っていただいた。この高作研の代表者である中井浩一氏は、教育ジャーナリストでもあり国語専門塾「鶏鳴学園」の塾長でもあるが、中井氏及び運営委員の方々からも高い評価を得た。

2 「書かせる指導」の今後の課題

ただ、この「書かせる指導」はお気づきの通り、膨大な時間を要する。1回の添削において5~6時間はかかるので、1週間に2本となると、10~12時間となる。それで、この指導を行っていた時の私の月の残業時間は200~250時間で、年間の休業日が3~15日であったことから、362~350日は学校で仕事をしていた。それで、県内外から様々なところで講演・講話をする機会を頂いてきたが、質疑応答で一番多かったのが「家族は大丈夫ですか?」といったものである。となると、この指導方法を取り入れてもらうことは非常に困難を伴う。

やはり、指導内容の取捨選択と組織的な方法を取り込んだりしないかぎり、伝播することは困難なものであることが挙げられる。そのためにも、表現指導の3段階を体系的に捉え、整理し、3年間のカリキュラムを作成してみるのもいいのではないかと考えている。

私の実践してきたクラスにおいては「書かせる指導」が功を奏していると考えられるが、他の学級、他の学校、他の教師が実践できるのか、と考えた時、未知数のところがある。また、実践する教師が存在したとしても書かせる文の分量の統一力、回収力、添削力など備えているかが重要だと考えるが、文の分量の統一力、回収力さえない教師が目立つことが予想される。このような学級と比較してもあまり意味がなくなる可能性もあり、この他の学級、他の学校、他の教師が実践した場合どうなるのかという課題についてはひじょうに困難を伴う現状がある。また、どの程度の指導をするとどの程度の効果が出るのかが定かではない。

また、この「書かせる指導」が効果のあるとしても学習指導の一方法として世の中に広めようとしても多忙感を感じている教師にとっては煩わしいものでしかなく、「手軽さ」、「効率性」というものを追及しない限り、ごく限られた教師にしかできない指導になると考えられる。また、「書かせる」といっても「写す文」、「事実の文章化」、「知識のつなぎ合わせ文」、「創造的文」では効果が違うはずであり、どのように違うかも明確ではない。これらのことを実証していく方法を探っていくことが効果を科学的に証明する上で必要になると考えるものである。

さいごに

この指導は、平成22年度に菊池農業高校1年生を担当して以来、私に与えられる仕事の変化や教育情勢の変化、生徒の質の変化によりフルスペックでは実施できなくなってしまった。現在は、クラスにおいては掻い摘んで実施したり、進学希望者に対して省略した形式で実施したりしている程度である。この状況が何より残念でならない。

今現在、強く思うことは、後継者の育成と農業教育あるいは学校現場以外での活用である。